



ウポポイ

NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

北海道白老町に 2020 OPEN!

令和 2 年 3 月 3 1 日

令和 2 年度北海道開発事業費

(札幌開発建設部実施分) の概要について

令和 2 年度北海道開発事業費（札幌開発建設部実施分）について、別紙のとおりお知らせします。

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部

全 体 広 報 官	木全 裕示（電話番号 011-611-0279 ダイアルイン）
河川関係	河川計画課長 松原 寛（電話番号 011-611-0329 ダイアルイン）
道路関係	道路計画課長 西山 泰幸（電話番号 011-611-0239 ダイアルイン）
空港関係	空港対策官 栗林 則夫（電話番号 011-611-0273 ダイアルイン）
公園関係	道路整備保全課長 甲斐 明（電話番号 011-611-0246 ダイアルイン）
農業関係	農業整備課長 有安 建也（電話番号 011-611-0247 ダイアルイン）



札幌開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/sp/>

令和2年度

北海道開発事業費
(札幌開発建設部実施分)の概要について

令和2年3月

札幌開発建設部

目 次

I	札幌開発建設部事業費総括表	1
II	札幌開発建設部関係事業概要（事業別）		
1	治水関係事業	2
2	道路事業	1 1
3	空港整備事業	1 9
4	国営公園事業	2 0
5	農業農村整備事業	2 1

令和 2 年度 札幌開発建設部事業費総括表

(事業費)

(単位：百万円)

事 項	予 算 額	備 考
治 水	52,849	
道 路	40,500	
空 港 整 備	5,562	
都 市 水 環 境 整 備	173	
国 営 公 園	1,071	
農 業 農 村 整 備	21,464	
合 計	121,619	

注) 1. 農業農村整備を除き、工事諸費は含まれていない。
 2. 四捨五入の関係で計と内訳が一致しない場合がある。

令和2年度の主な河川事業（石狩川下流）

近年頻発する水害・土砂災害を踏まえ、北海道総合開発計画に基づき、強靱な国土づくりへの貢献と安全・安心な社会基盤の形成に資するためのインフラ整備や老朽化対策の推進を図るとともに、農林水産業や観光等を担う「生産空間」の保持・形成に資する治水事業を実施します。

また、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動やサイクリング環境等、川に関する情報を効果的に発信するとともに、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献する「かわたび北海道」プロジェクトを推進します。



かあたび
ほっかいどう

KAWATABI HOKKAIDO



— 石狩川 北村遊水地整備 —

石狩川下流域には道都札幌市等が位置し、北海道の社会、経済の中核となっているほか、流域内の広大な農地は我が国有数の食料供給地です。

昭和56年8月洪水時には、11箇所の堤防が破堤するなど、氾濫面積614km²、被害家屋約22,500戸におよぶ甚大な浸水被害が発生しました。この戦後最大規模の洪水被害を解消するために北村遊水地の整備を推進します。

《北村遊水地》

- 事業箇所 : 岩見沢市、月形町、新篠津村
- 事業期間 : 平成24年度～令和8年度
- 遊水地面積 : 950ha（遊水地単独の面積では、全国で3番目の大きさ）
- 洪水調節容量 : 4,200万m³
- 主な整備内容 : 周囲堤、囲ぎよう堤、越流堤、排水門、用地・補償など
- 令和2年度実施内容 : 囲ぎよう堤、周囲堤、用地・補償

■昭和56年8月上旬洪水 石狩川流域浸水実績図

<S56.8月上旬洪水被害概要>
・氾濫面積約614km²、被害家屋約22,500戸、死者2名

凡 例

- 氾濫区域
- ⊗ 破堤箇所



創成川 市街地の浸水状況
(札幌市・昭和56年8月洪水)



石狩川右岸 下新篠津築堤付近の氾濫状況
(江別市・昭和56年8月洪水)

昭和56年洪水からこれまでの対応

- ・石狩川下流部については、昭和56年洪水を対象とした築堤・掘削等の河川改修がほぼ完了
- ・千歳川流域において、支川及び石狩川本川の洪水調節に効果を発揮する千歳川遊水地群等の整備に着手

現在着手していない石狩川中上流部の河川改修を行うためには、改修による流量増をカバーする洪水調節施設が必要

北村遊水地の整備



平常時



平常時は農地として利用

洪水時



洪水時は遊水地として利用

洪水の一部を遊水地に貯留し、洪水時に川の水位を下げる。

■北村遊水地等の整備によって、昭和56年洪水対応が完了し、石狩川下流域の浸水被害を解消。

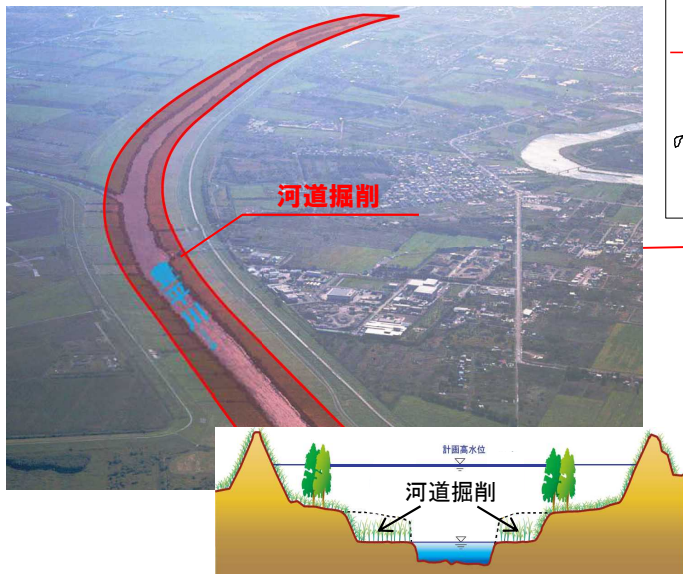
－札幌市の壊滅的被害を防止・軽減するための治水対策(豊平川)－

札幌市は北海道の社会、経済の中核となっており、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要な交通網や資産を有しています。

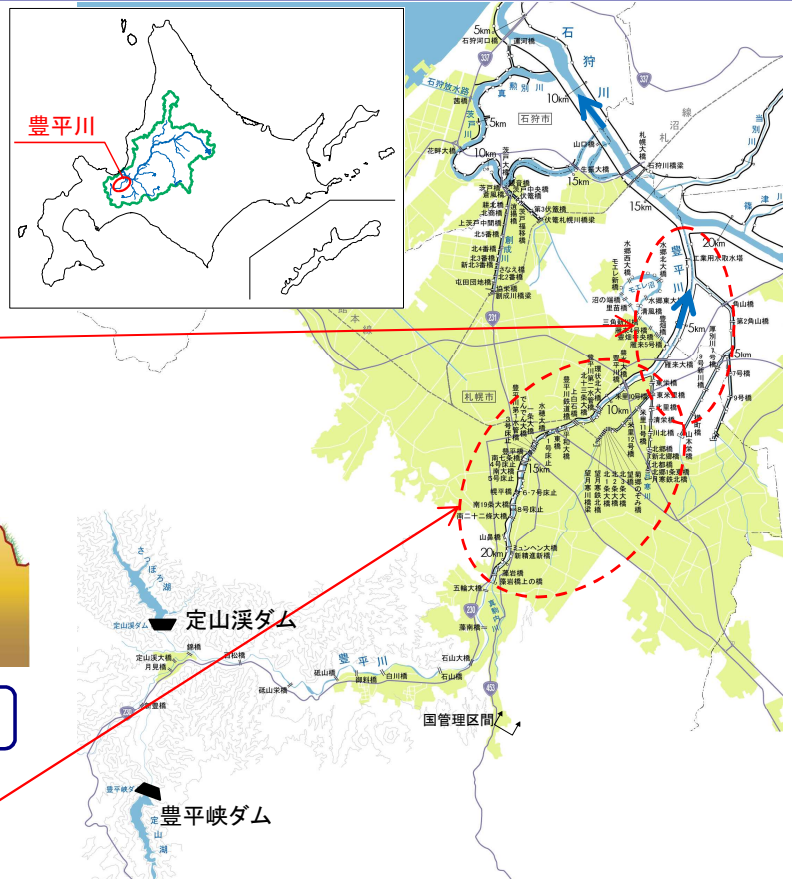
こうした背景のもと、ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。そのため流下断面を確保するため、河道掘削や河道内樹木の管理などのハード対策を実施するとともに、札幌市等と連携しつつ各種訓練や情報共有化等のソフト対策が一体となった治水対策を推進します。

○令和2年度実施内容 河道掘削、河道内樹木の管理等

河道掘削による流下能力の確保



河道内樹木の管理(除去による流下能力の確保)



各種訓練や情報共有化等のソフト対策



石狩川下流域外減災対策協議会 豊平川外地域部会実施状況
(参加機関 札幌市、石狩市、当別町等 8機関)



水防工法訓練状況



ホットライン伝達訓練

平成30年度石狩川水系豊平川総合水防演習実施状況

— 幾春別川総合開発事業 —

幾春別川下流部は豊かな農地として利用され、上流部には深い山々に囲まれた桂沢湖があり、川が刻んだ周囲の渓谷からは、貴重な化石が出土しています。また、流域内には道央圏と上川地域を結ぶ基幹交通施設が位置しており、交通の要衝となっており、洪水災害から地域社会を守るため、幾春別川総合開発事業を推進します。

新桂沢ダムは、昭和32年に完成した北海道の直轄多目的ダムである桂沢ダムを約12m嵩上げする再開発ダムであり、三笠ぼんべつダムは幾春別川の支流である奔別川で新たに建設される治水専用ダムです。

○令和2年度実施内容： 本体工事、付替道路工事 等

○目的

- ・洪水調節（幾春別川、石狩川の洪水防御）
- ・流水の正常な機能の維持
- ・水道用水の供給（桂沢水道企業団（岩見沢市、三笠市、美唄市）0.1m³/s）
- ・工業用水の供給（北海道企業局 0.149m³/s）
- ・発電（電源開発（株）最大16,800KW）



－ 石狩川水系豊平川直轄砂防事業 －

札幌市は北海道の社会・経済・文化の中心であり、その中心部を貫流する豊平川の背後には市街地が広がるほか、国道などの重要交通網や要配慮者利用施設などが集積しています。ひとたび氾濫した場合には、中心市街部に甚大な被害が発生するとともに、都市機能を麻痺させるおそれがあります。

また、札幌市街地は豊平川の扇状地上に形成されており、昭和56年洪水では、豊平川本川河道に流出した堆積土砂による河床上昇のため、堤防付近を高速流が流れる大変危険な状態になりました。幸い、豊平川本川では堤防決壊には至りませんでした。上流域の河岸段丘や支川沿いの市街地では、土石流や溪岸浸食により死者1名を含む甚大な土砂災害が発生しました。これらを契機に、翌昭和57年より直轄砂防事業による砂防設備の整備を進めています。

○事業効果

砂防堰堤や床固め工等の砂防設備の整備により、下流への土砂流出や堆積土砂の再移動を抑止し、豊平川本川の氾濫被害を軽減するとともに、市街地や重要交通網、要配慮者利用施設などの資産を土石流等の土砂災害から守ります。

○令和2年度実施内容 砂防堰堤工等



－ 総合水系環境整備事業【石狩川下流地区】(かわまちづくり) －

河川空間を活用した地域活性化のため、砂川遊水地及び漁川（道と川の駅 花ロードえにわ隣接地）において、地元自治体と連携して「かわまちづくり」を推進します。

砂川地区：砂川オアシスパーク（砂川遊水地）を活用し、アウトドアスポーツ等のアクティビティが楽しめる空間として親水護岸や管理用通路等の整備を行います。また、民間事業者等による営業活動を可能とし、砂川のスイーツや観光情報の発信拠点として整備します。

恵庭地区：管理用通路の整備等を通じて公園や市街地との連続性を向上させるとともに、親水施設の整備によって良好な水辺空間を創造し、観光地の魅力や居住環境の向上を図ります。

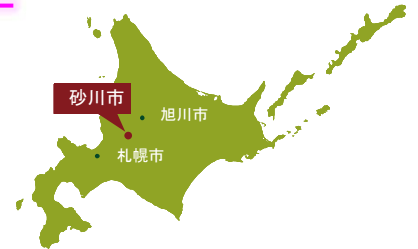
○令和2年度実施内容【砂川地区かわまちづくり】 高水敷整正、施設設計 等
【恵庭かわまちづくり】 親水護岸、管理用通路 等

砂川地区かわまちづくり

親水護岸や管理用通路等の整備と、都市・地域再生等利用区域指定による水辺の賑わいづくり

- ：国交省
- ：砂川市・協議会

－砂川スイーツが結ぶ まち・人・水辺－



恵庭かわまちづくり

恵庭市による花の拠点整備と連携し、良好な水辺空間を創造

－花のまち恵庭で広がる、水辺の観光拠点と次世代住環境－

花の拠点

「道と川の駅」の後背地に、カフェ等を備えた「花の観光拠点」を整備



新住宅団地

省エネ・創エネに配慮したエコ住宅の整備

散策路や植栽



地区計画や建築協定による景観や環境に配慮した住宅



住民の憩いの場となる広場



かわゾーン

管理用通路の整備による漁川への連続性改善や、親水施設の整備



令和2年度 道路事業

1. 食料供給基地としての持続的発展及び世界水準の観光地の形成を目指す地域社会の形成

(1) 広域分散型の地域構造を支える道路ネットワークの形成

高規格幹線道路と一体となって、道央都市圏と他圏域（地方部の生産空間、地方部の市街地及び圏域中心都市）とのアクセス強化を図り、「人流・物流の拡大」や「地域・拠点間（空港、港湾等）の連携」を確保するため、地域高規格道路「道央圏連絡道路」整備による道路ネットワークの構築を推進します。

また、高次都市機能が集積する札幌都心部と他圏域とを結ぶ幹線道路の交通円滑化を図るため、4車線拡幅「国道230号 定山溪拡幅」「国道275号 江別北道路」などの事業を推進します。



泉郷道路（道央圏連絡道路）
（令和2年3月7日開通）



国道275号江別北道路
（新石狩大橋新設で新たな2車線を整備）

(2) 「生産空間」の生活を支える「道の駅」の活用・充実

道の駅を地方創生や観光を加速する拠点として、インバウンド観光への対応強化や防災機能強化の推進、子育て応援施設や大学との連携など、あらゆる世代が活躍する地域の拠点機能の強化を推進し、官民の力を合わせて更なる地方創生を実現します。



防災訓練
（花ロードえにわ）



官民連携による子育て応援自動販売機の整備
（スタープラザ芦別）

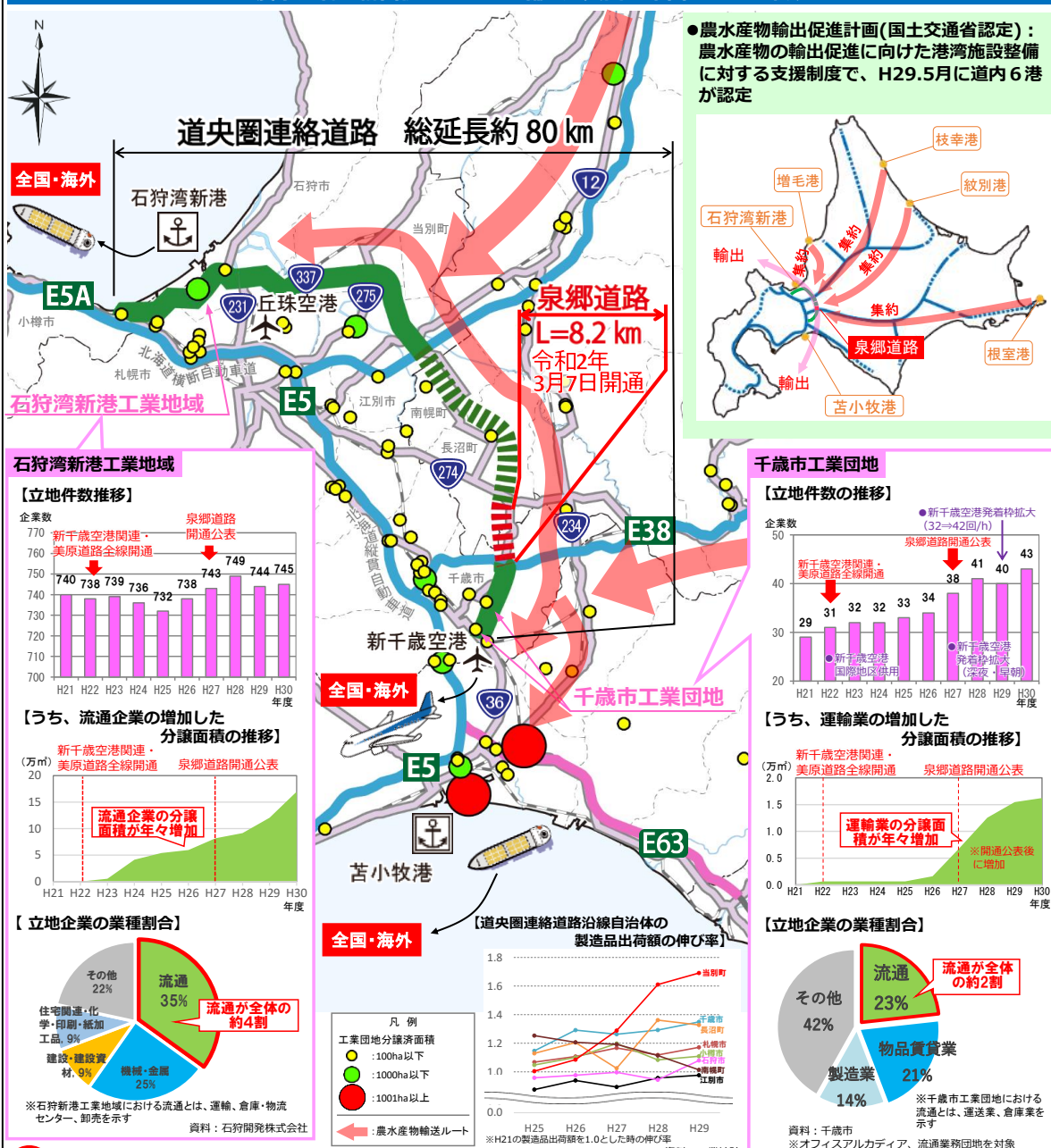
＜道央圏連絡道路 泉郷道路の整備効果事例＞

■企業立地の支援

○新たな輸出成長分野として見込まれる農水産物の輸出増加に対応するため、農水産物輸出促進計画に基づき港湾施設整備が推進され、当該道路は輸出拠点港湾等へ集約される際のルートとして利用されます。

○道央圏連絡道路沿線の工業団地では、集約された農水産物などの加工を行う製造品出荷額が増加しているなど、物流業者や製造業者の企業立地が進んでいます。

農水産物の輸出促進基盤の整備と道央圏工業団地の立地状況



声

【自治体職員】

- ・千歳市には、空港および高規格幹線道路等周辺に工業団地が集積し、物流事業者の立地が増えていきます。
- ・千歳市は、新千歳空港と苫小牧港とのダブルポートとして、連携した誘致や展示会の出展等でPRしています。
- ・道央圏連絡道路が延伸することで、道内各地へのアクセス性が高まり、企業立地が増えることによる地域活性化を期待しています。

2. 『観光先進国』実現をリードする世界水準の観光地の形成

(1) 外国人ドライブ観光の推進

外国人旅行者の急増、個人旅行化、冬期間のレンタカー利用者増加、地域間の旅行需要の偏在に対し、鉄道やバス等の公共交通機関とともに重要な2次交通手段であるレンタカーを利用するドライブ観光を推進するため、多言語による道路情報提供等の充実、快適なドライブ環境の形成を推進します。



道路情報板における英語による道路情報発信



高速道路ナンバリング

(2) 「シーニックバイウェイ北海道」の推進

地域資源を最大限に活用した美しい景観づくり・活力ある地域づくり・魅力ある観光空間づくりを目指し、「支笏洞爺ニセコルート」「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート」「空知シーニックバイウェイ体感未来道-」（候補ルート）の活動団体と協働した取組を推進します。

また、「世界水準」の観光地形成に向け、地域と道路管理者との協働で、地域の魅力ある道路景観の重点的保全を行う取組であるシーニックバイウェイ「秀逸な道」を推進します。



千歳ウエルカム花ロード
(支笏洞爺ニセコルート)



道の駅におけるサイクル拠点化の取組（モニタリングツアー）
空知シーニックバイウェイ体感未来道-（候補ルート）



秀逸な道

国道230号札幌市南区定山溪 L=5.4km



秀逸な道

国道453号千歳市幌美内 L=7km

(3) 北海道におけるサイクルツーリズムの推進

北海道開発局及び北海道では、サイクルツーリズムを推進するため、石狩・空知・上川地域の全長約430kmに及ぶ「石狩川流域圏ルート」、石狩・宗谷地域の全長約290kmに及ぶ「石狩北部・増毛サイクルルート」において、案内看板や路面表示の設置等の安全で快適な自転車走行環境を創出、道の駅へのサイクルラック設置等の受入環境の整備・改善に取り組んでいます。引き続き、自転車利用環境の充実を図るとともに、官民連携による持続的な取組体制の構築を図るなど、世界水準のサイクリング環境の構築に向けた取組を推進します。



道の駅におけるサイクルラック設置
(写真左 「北欧の風 道の駅 とうべつ」
写真右 石狩「あいりーど厚田」)



石狩北部・増毛サイクルルート
(望来ビュー)

3. 強靱な国土づくりと安全・安心な社会基盤の形成

(1) 道路の防災・減災対策

重要インフラの緊急点検結果等を踏まえ「国民経済・生活を支える重要インフラ等の機能維持」の観点から、法面・盛土対策など、特に緊急に実施すべきハード・ソフト対策について、令和2年度までの3年間で集中的に実施します。



道路斜面对策（被災状況と土砂防護柵設置後）



越波対策（越波状況と防波柵設置後）

（２）冬期交通の安全確保と暴風雪災害時におけるきめ細かな地域支援

安全で円滑な冬期道路交通の確保を図るため、気象状況や交通状況等を踏まえて、適切なタイミングで除排雪作業を実施します。また、関係機関で組織されている道路防災連絡協議会で相互の連携強化を図るとともに、地方公共団体への支援のため除雪機械の貸付やリエゾン^注の派遣による災害関連情報の共有等の支援体制構築について継続的に実施します。

（注：重大な災害の発生または発生のおそれがある場合に情報収集等を目的として地方公共団体へ派遣する職員）



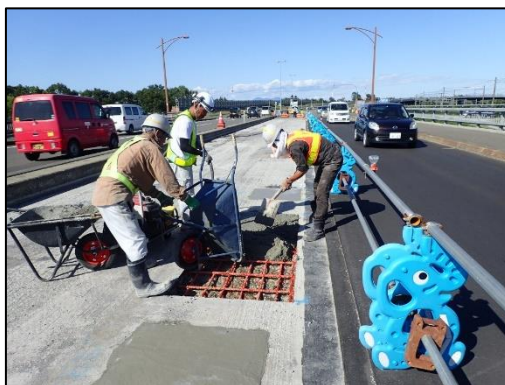
除雪作業



道路防災連絡協議会

（３）道路施設の老朽化対策

道路メンテナンスの２巡目を、将来にわたる安全性の確保や財政負担軽減の最後の機会と捉え、１巡目点検結果を踏まえた早期措置が必要な施設への計画的な対策を進め、予防保全による道路の老朽化対策への転換を図るとともに、地方公共団体における老朽化対策への技術支援を実施します。



橋梁補修（床版打替等）



道路メンテナンス講習会

（４）無電柱化の推進

道路の防災性の向上、安全で快適な通行空間の確保、良好な景観の形成や観光振興の観点から、無電柱化推進計画に基づき、無電柱化を推進します。これに加え、「防災・減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」として、電柱倒壊の危険性の高い市街地の緊急輸送道路の区間において、無電柱化を実施します。

【電線共同溝実施箇所】

国道12号 札幌市（菊水地区、白石中央地区、白石本通地区、白石本通第二地区、厚別中央地区）

国道12号 江別市（野幌町地区、野幌町第二地区）

国道12号 砂川市（西一条地区）

国道233号 深川市（四条地区）

※そのほか国道230号定山溪拡幅（改築事業）、国道36号千歳錦町事故対策事業（交通安全事業）等においても無電柱化をあわせて推進。



【整備前】（国道12号札幌市中央区北一条）



【整備後】（国道12号札幌市中央区北一条）

（5）交通安全対策の推進

事故データ、地域の声やビッグデータを活用した分析により、事故の危険性が高い区間を抽出して重点的な対策を実施する事故ゼロプラン（事故危険区間重点解消作戦）を推進するとともに、高速道路の暫定2車線区間については、正面衝突対策としてワイヤロープの設置を計画的に推進します。

【主な事業】（令和2年度新規事業）

国道5号 新川交差点改良

国道12号 空知太東1条交差点改良ほか2箇所

国道234号 道道恵庭栗山線交差点改良

▼事故ゼロプランにおける衝突・追突事故対策事例（国道234号由仁交差点）



【事故対策前】（国道234号由仁交差点）

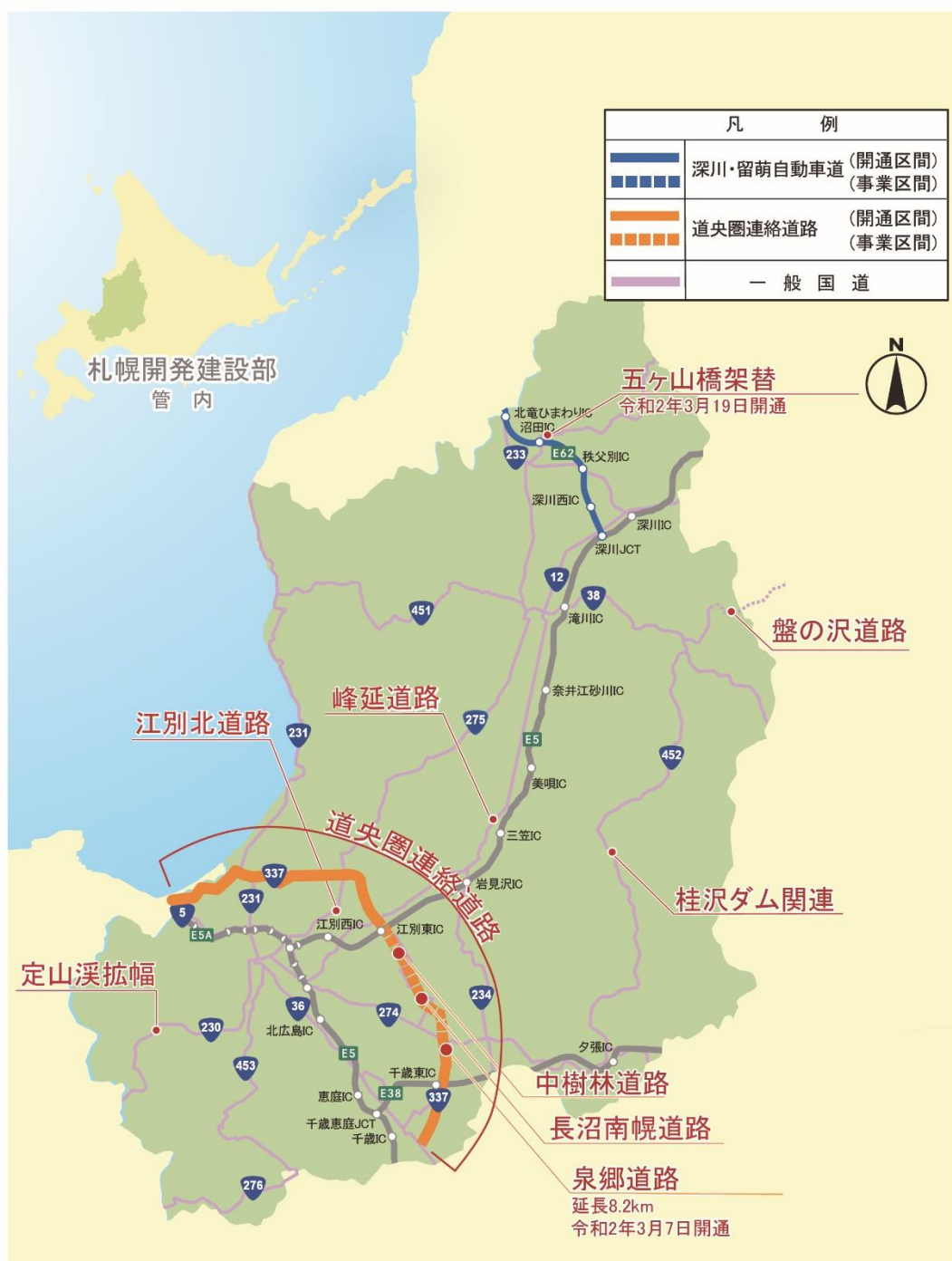


【事故対策後】（国道234号由仁交差点）

（滑り止め舗装、横断歩道カラー化、減速路面表示を実施）

【参考】

札幌開発建設部管内の主な道路事業



令和2年度の道路調査の見通しについて

個別路線の事業化に向けて、ルート・構造検討に係る調査等を進めます。
主な調査箇所は、下記の通りです。

【主な調査箇所】

都市計画・環境アセスメントを進めるための調査

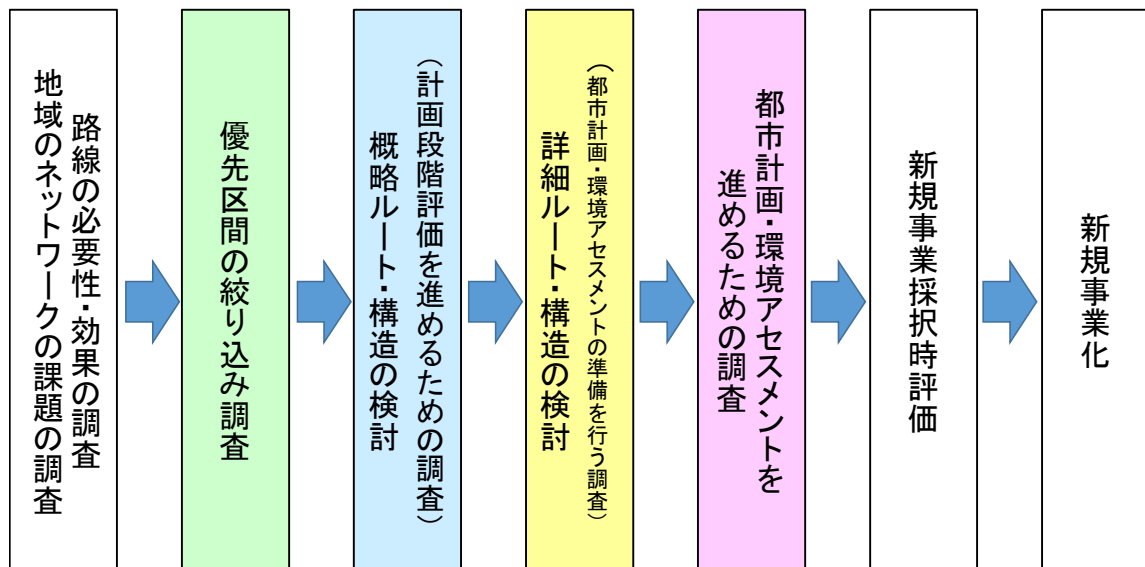
一般国道 5 号

そう せい がわ どおり
創成川通

さつ ぽろ
札幌駅の交通ターミナル(特定車両停留施設※)の事業計画の策定に向けた調査を実施します。

※改正法案を国会提出済み

＜道路調査の流れ＞



空 港 整 備 事 業

1. 「観光先進国」実現をリードする世界水準の観光地の形成

外国人旅行者等の受入環境の整備（空港の機能強化：誘導路複線化）

冬期の新千歳空港では、除雪車両や駐機場へ引き返す航空機の導線が確保されていないことに起因する、航空機の欠航や遅延が課題となっています。冬期においても航空機の安定運行を行うために、誘導路の複線化事業を推進し、外国人旅行者等の受入環境向上を目指します。



2. 強靱で持続可能な国土の形成

～激甚化・多様化する災害への対応と安全・安心な社会基盤の形成～

地震の発生に備えた対策の推進（滑走路の液状化対策、河川函渠等の耐震補強）

新千歳空港では、大規模地震災害時に緊急物資等の輸送拠点としての機能確保、航空ネットワークの維持や背後圏経済活動の確保を図るため空港施設の耐震対策を推進します。

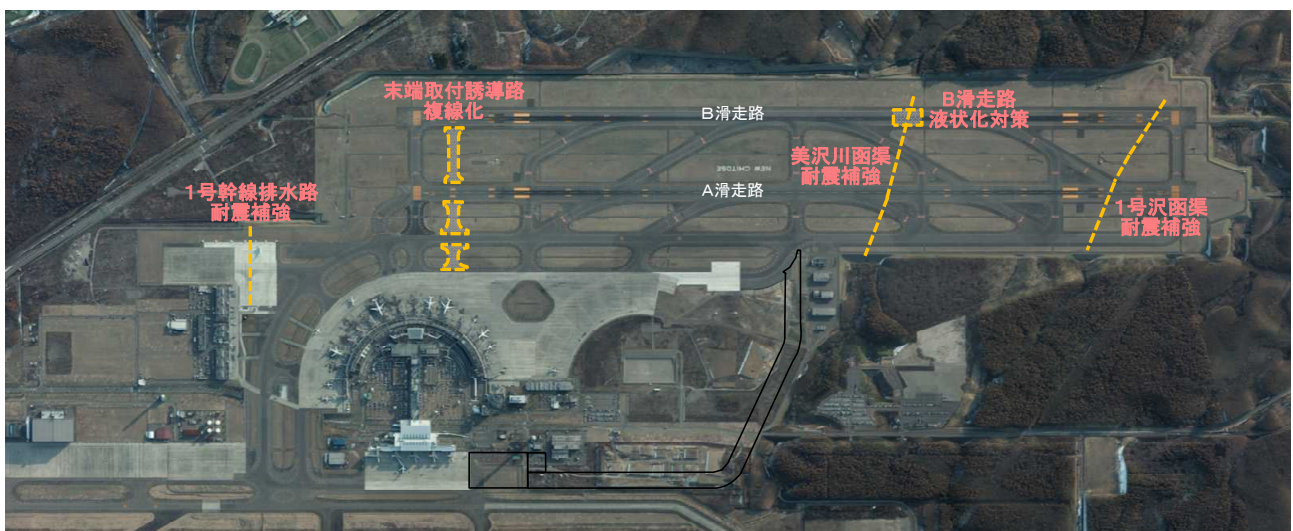


液状化対策による
滑走路等の凹凸防止



耐震補強による
地下構造物の崩壊防止

● 令和2年度 新千歳空港整備対象施設



令和2年度 国営公園事業（国営滝野すずらん丘陵公園）

◇広域レクリエーションの拠点となる大規模公園の運営維持管理

国営滝野すずらん丘陵公園では、四季折々、北海道ならではの豊かな自然を満喫できるよう、自然体験型観光や冬期も利用可能な広域レクリエーションなどのニーズに対応した公園を目指しています。

当公園は、平成22年度に約400ha全面を開園しており、安心して、たくさんの利用者がご来園いただけるよう、適切な運営維持管理を行います。また、Wi-Fiスポットの提供、QRコード（15カ国語対応）による公園情報の提供、翻訳機等による公園案内、イングリッシュガイドツアー（スノーシュー）の開催等を継続し、新たにSNSを活用した動画による情報発信、ピクトグラムや多言語の案内標識の大型化や増設等、外国人観光客が快適・円滑に公園を楽しむための受入環境整備を推進します。

国営滝野すずらん丘陵公園



チューリップ・すずらんフェスタ



Wi-Fiスポットの提供



イングリッシュガイドツアー（スノーシュー）

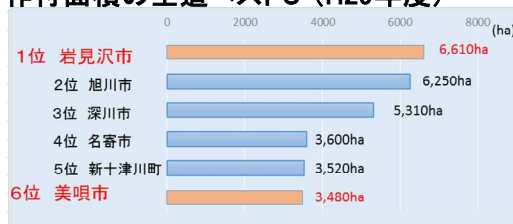




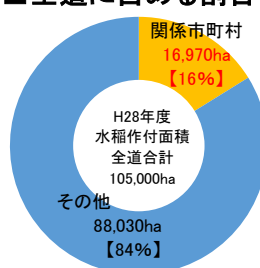
1 地域の概要

- ▶ 石狩川中流域に拓けた稲作を中心とした農業地帯
- ▶ 水稻作付面積が全道1位と4位を受益とする「米どころ」(岩見沢市で「米-1グランプリ」を受賞)
- ▶ 北海地区の関係市町村で、約2万haの水稻を生産→全道の約2割を占める
- ▶ たまねぎ、はくさいなどは、野菜指定産地の指定を受け、道内有数の産地

■水耕作付面積の全道ベスト5 (H29年度)



■全道に占める割合



岩見沢市のたまねぎ
全道4位の作付面積(H28)

1,120ha

岩見沢市のはくさい
全道1位の作付面積(H28)

189ha



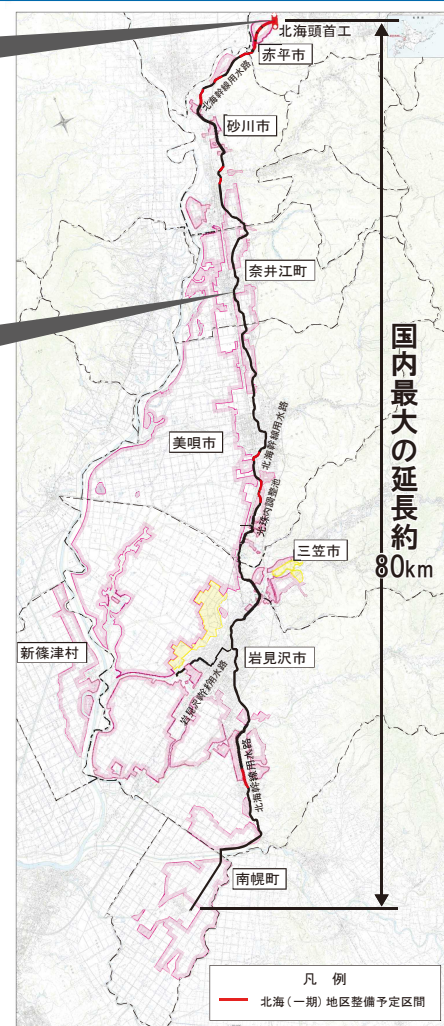
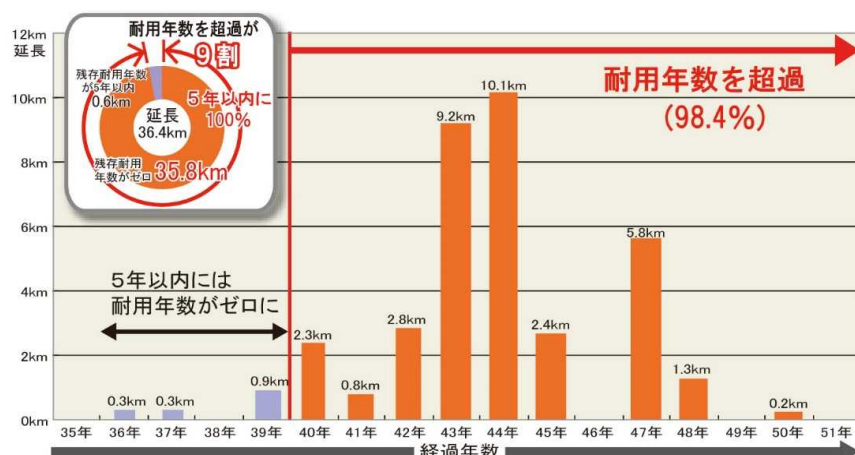
「米-1グランプリ」
でコメ日本一

2 地域の現状と課題

- ▶ 国内最大規模の「北海頭首工」・「北海幹線用水路」が、地区内の水稻生産を支えている
- ▶ これらの既存施設は、築造後40年以上を経過する施設が約9割
- ▶ 5年以内に、ほぼ全ての施設の残存耐用年数がゼロ
- ▶ 積雪寒冷地に対応した構造となっておらず「水路倒壊」等のおそれ



■北海幹線用水路及び岩見沢幹線用水路 既設使用区間の造成後経過年数(H25時点)



3 事業目的

北海地区の農業用水施設は、老朽化・凍上等によるコンクリートの劣化が進行している。

また、北海幹線用水路は、長大な水路であるため、効率的な用水管理や施設管理に苦慮している。

このため、本事業では頭首工及び幹線用水路を整備し、農業用水の安定供給、維持管理の軽減、用水管理の効率化を図り、農業経営の安定と地域農業の振興に資するものである。

4 事業計画概要

受益面積：27,002ha(田26,269ha、畑733ha)

関係市町村：岩見沢市、美瑛市、赤平市、三笠市、砂川市、南幌町、奈井江町、新篠津村

受益戸数：2,329戸

主要工事：頭首工1カ所(部分改修)、用水路2条(L=36.4km)

主要作物：水稲、小麦、大豆、たまねぎ、小豆、キャベツ、はくさい、花き

事業工期：平成22年度～

5 老朽化状況と改修適期

- 施設機能診断調査の結果から、「北海頭首工」、「北海幹線用水路」の健全度評価(老朽度)として、Ⅳ～Ⅰランクに区分

■施設機能診断調査結果

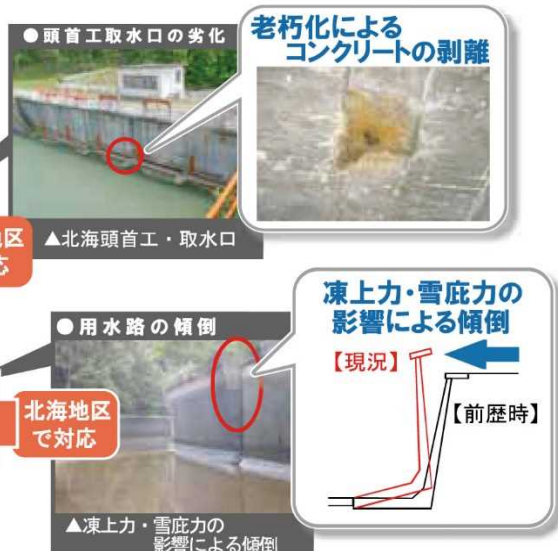
▼北海頭首工

工種	部位	グレード
土砂吐	堰柱	Ⅱ：要観察
	管理橋	Ⅱ：要観察
洪水吐	堰柱	Ⅱ：要観察
護床	エプロン	Ⅱ：要観察
取水口	—	Ⅲ-2：補強
護岸	擁壁	Ⅱ：要観察

▼用水路

グレード	北海幹線用水路(km)	岩見沢幹線用水路(km)
Ⅳ：改築	22.2	1.0
Ⅲ-2：補強	10.0	1.2
Ⅲ-1：補修	0.8	1.2
Ⅱ：要観察	—	—
Ⅰ：対策不要	—	—

※Ⅲ-2、Ⅲ-1は、経済比較の結果、最も有利となったⅣと同様の改築を行う。



■緊急性・優先度・早期効果発現を踏まえて改修時期を設定



※施設毎の優先度：「北海頭首工」→「北海幹線用水路」→「岩見沢幹線用水路」

※施設内の優先度：「上流部→下流部」、「劣化グレード上位→下位」、「市街地→農地」を評価して順位付け

6 用水管理の向上

- 長大な用水路で広域につながっているため、水管理や土砂流入対策が必要 ⇒ 降雨時等の水利制御施設や土砂排出のための進入路の整備



【国営施設応急対策事業】

お茶の水地区



－ 安定した排水対策による農業生産性の維持 －

地域の農業

本地区は、空知総合振興局管内の岩見沢市及び石狩振興局管内の江別市に位置する農業地帯である。地域の営農は水稻を基幹として、小麦、大豆等の畑作物のほか、たまねぎ、かぼちゃ等の野菜類、花き類を組み合わせた複合経営が展開されている。



地元JAのブランド米
「情熱米」



「まるいわ」ブランドで
販売される野菜類

6次産業化や直売
の取組み

地域の現状と課題

本地区の基幹的な農業水利施設は、国営美唄土地改良事業（昭和26年度～昭和43年度）等により整備されたが、幹線排水路では、鋼矢板護岸が倒壊・傾倒する不測の事態が発生している。また、排水機場においては機械設備や電気設備の動作不良等の性能低下が生じ、施設の維持管理に多大な費用と労力を要している。さらに、排水機場が大規模地震により損壊した場合、地域に甚大な被害を及ぼす恐れがある。



お茶の水排水路
護岸の倒壊



お茶の水排水機場
ポンプ設備の劣化
（漏水）



お茶の水第11支線
排水路
護岸の倒壊



お茶の水排水機場
排水樋門の劣化
（ひび割れ）

事業の目的

本事業では、これらの施設を保全するための整備と耐震化のための整備を一体的に行うことにより、排水機能の維持、施設の長寿命化及び維持管理の費用と労力の軽減を図り、農業生産性の維持及び農業経営の安定に資するものである。

事業計画概要

受益面積：2,854ha

関係市町村：岩見沢市、江別市

主要工事：排水路 5.7km
排水機場 1箇所

主要作物：水稻、畑作物（小麦、大豆）、野菜類（たまねぎ、かぼちゃ等）

施設の整備

【現状】

- ・排水路の鋼矢板護岸の倒壊・傾倒
- ・排水機場の機械設備、電気設備等の動作不良等
- ・排水機場の耐震性不足



お茶の水排水路



事業の未実施

- 劣化等が進行し、
- ×施設の維持管理費の増嵩
- ×構造的な安定性の低下



- さらに、
- ×排水機能の低下
- ×湛水・湿害による安定生産への支障

お茶の水排水機場



事業の実施

- ◆不測の事態への対策
- ・排水路の改修

- ◆排水機場の長寿命化対策
- ・ポンプ、原動機、減速機、電気設備の更新
- ・樋門の補修

- ◆排水機場の耐震化対策
- ・吸込水槽耐震補強

維持管理の低減

農業生産の維持



国営農地再編整備事業

南長沼地区



現 状

本地区は、北海道の石狩平野南東部に位置し、石狩川水系千歳川流域に拓けた水田地帯であり、水稻と転作作物である小麦、大豆を主体とする土地利用型作物を中心に、収益性の高い野菜などを導入した複合経営が展開されている。

また、地域では全町的に営農集団を設置し、共同作業等による生産コストの低減を図りながら農業所得の向上を目指している。

しかしながら、地区のほ場は小区画かつ不整形で排水不良を呈しており、経営耕地も分散していることから、共同作業による機械化作業に支障を来している。



小区画ほ場



排水不良ほ場

事業目的

本事業は、既耕地を再編整備する区画整理と地目変換による農地造成を一体的に施工し、生産性の高い基盤の形成と土地利用の整序化を通じ、農業の振興を基幹とした本地域の活性化に資することを目的としている。

本地区では、地域農業の維持・発展に向け、本事業を契機として、効率的かつ安定的な営農集団体制を確立し、土地利用型農業の効率化と集約型農業の拡大による地域農業の担い手となる農業者の経営安定・向上を目指す。

大区画ほ場の整備



整備前

0.3ha~0.5ha



整備後イメージ

2.3ha



【大豆】



【水稻】

ほ場の大区画化に伴い大型機械による共同作業体系を確立

事業概要

- ◇関係市町村：夕張郡長沼町
- ◇受益面積：1,550 ha
- ◇受益戸数：160 戸
- ◇主要工事：区画整理 1,545 ha
開 畑 5 ha
幹線用水路 3条 7.7 km
- ◇主要作物：水稻、小麦、大豆、野菜類



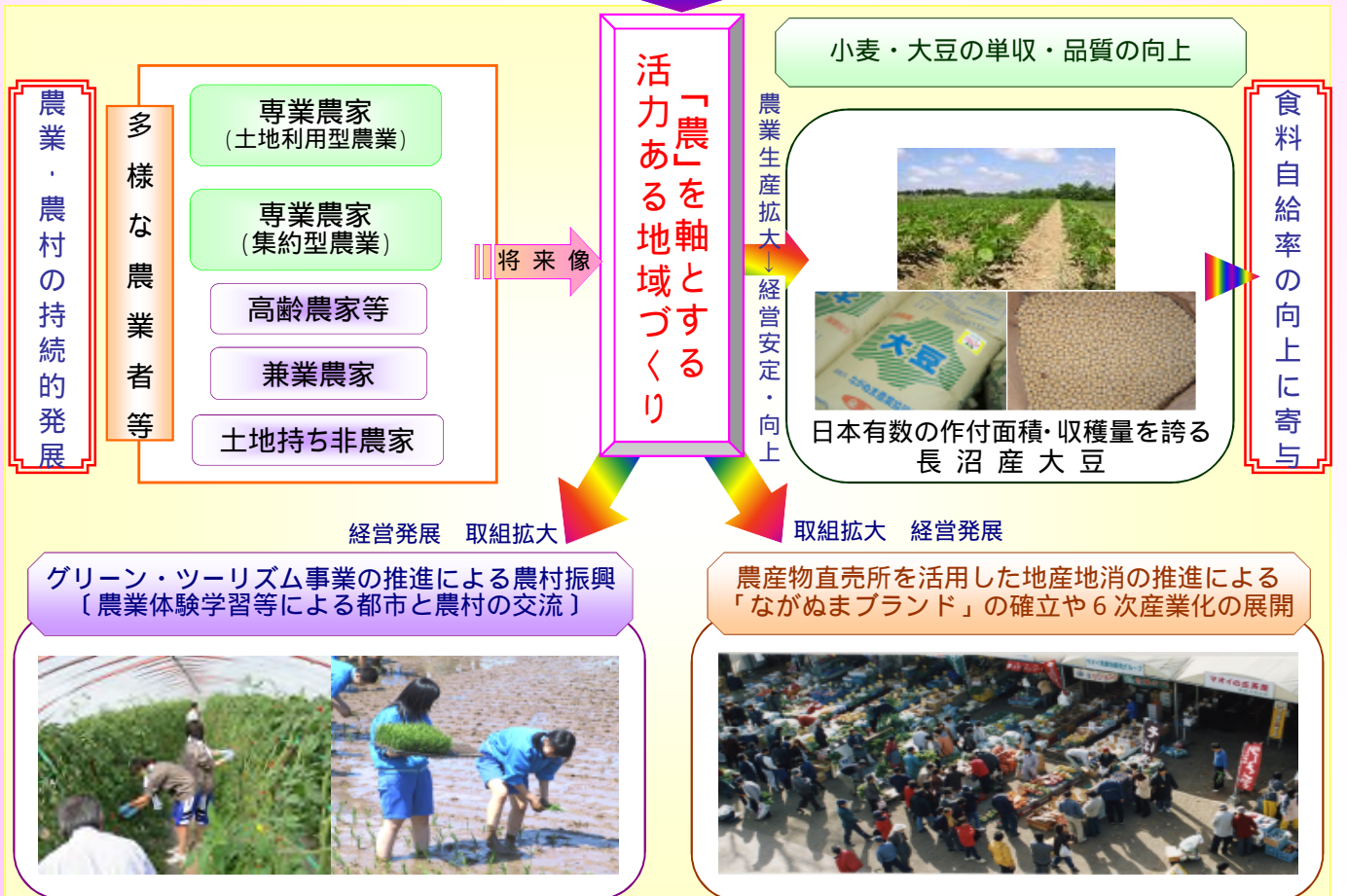
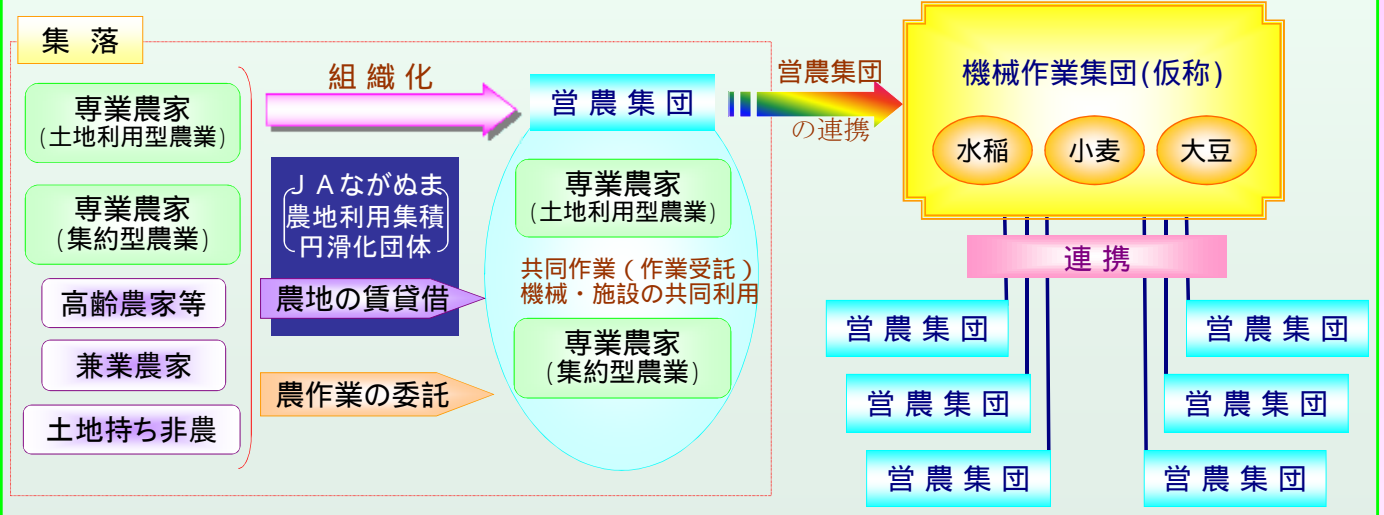
国営農地再編整備事業「南長沼地区」事業構想

現在

国営農地再編整備事業による整備

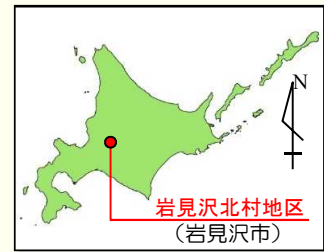
将来

営農集団体制の確立による地域農業の維持・発展
大型高性能農作業機械の更なる効率的な利用体制の整備



国営緊急農地再編整備事業

いわみざわ 岩見沢北村地区



～ ICT を活用した低コスト・高品質生産を実現する
未来につなぐ”強い いわみざわ農業”の展開～

地区の概要

北海道第1位の水稲作付面積を誇る道内有数の穀倉地帯であり、食味が特に良好な「特A」米の産地となっている。さらに、水田の転作作物として、小麦、大豆のほかはくさい等の野菜生産にも力を入れており、水稲を基幹とした複合経営が展開されている。

位 置：北海道石狩平野のほぼ中央、石狩川左岸に広がる水田地帯

関係市町村：岩見沢市

受益面積：1,393ha(田：1,360ha、畑：33ha)

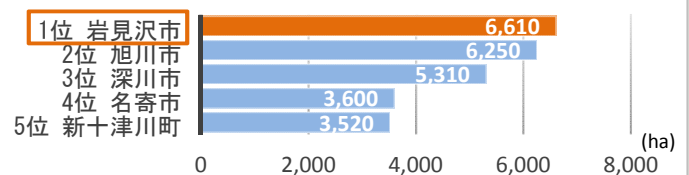
主要作物：水稲、小麦、大豆、はくさい、にんじん、かぼちゃ、キャベツ、スイートコーン

＜地区全景＞



はくさい「地域ブランドである
”まるいわブランド”」
「厳選された高品質米
”大地のこだわり情熱米”」【全道一の作付面積】

□水稲作付面積(H30)の全道上位5市町村



地区農業の現状と課題

本地区は、農家数の減少により経営規模の拡大が進み、離農跡地の継承による経営耕地の分散化が進んでいる。また、農地は、平均区画が0.4haと小区画であり、泥炭土に起因した排水不良を呈していることから、農作業効率が悪く、農業生産性の向上を図るうえで支障を来している。

また、岩見沢市で普及推進を図っている農作業機械の自動走行等のスマート農業の導入による省力化・低コスト化が進められない状況にある。

加えて、排水不良と労働力不足から野菜の増産が進まない状態となっている。

このため、現状の基盤のままでは今後、耕作放棄地が広域的に発生するおそれがあり、大区画化等の基盤整備が急務な状況となっている。

岩見沢北村地区の事業構想

■地区の生産基盤状況

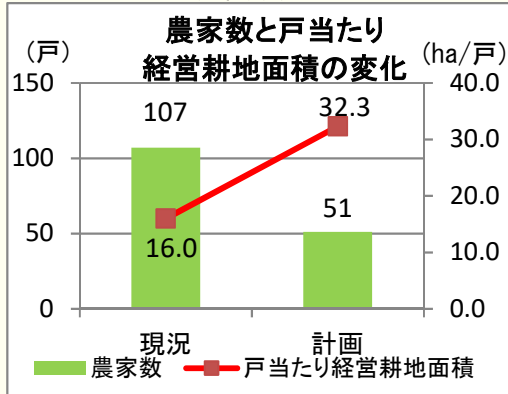
「0.5ha未満の小区画ほ場が9割を占める」



- 小区画なほ場 「泥炭土壌に起因した排水不良が生じている」
- 排水不良
- 経営耕地が分散化(最大12団地に分散)

耕作放棄地増加の懸念

■地区の営農状況



「将来(約15年後)には、平均で30ha/戸規模に」

国営緊急農地再編整備事業の実施

ほ場の大区画化や排水改良による基盤整備と換地処分による担い手への農地集積を進め、耕作放棄地の発生を未然に防ぎ、農地の引き受け手である担い手が大規模な経営や高収益作物の生産を拡大できる土台を形成

- ・ほ場の大区画化(0.4ha区画→2.4ha区画)
- ・排水不良の解消
- ・水管理の合理化
- ・担い手農家への農地集積

<現況のほ場>



<整備後のほ場>



生産現場:ICT活用によるスマート農業の取組

- 岩見沢市により高精度測位情報の配信が可能なRTK-GPS基地局を設置
- 自動操舵システム等の導入によるスマート農業の推進



【GPSレベラー】【GPSガイダンス及び自動操舵システム】 【GPS位置データを活用】

担い手:農作業請負体制の構築

- 既存の機械共同利用組合の取組拡大による農作業請負体制の育成
- 共同作業体により集落単位での農作業の受託を行う生産システム化を進める



【小麦収穫における共同作業】

生産・加工・流通:野菜類を組み入れた複合経営の確立

- まるいわブランド(野菜類)を全国各地の市場・量販店へ出荷
- 生産履歴やGAPの取組による肥料・農薬の適正使用のチェック

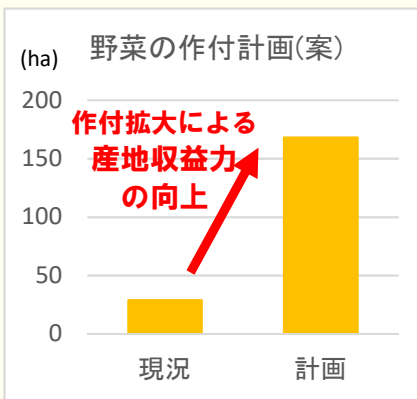


【全道一の作付面積】

【はくさいの収穫状況】(まるいわブランド)

経営規模及び高収益作物の拡大によって農業所得の増加・産地形成の強化

- 共同作業体による農作業受託体制を構築し、労働力の軽減を図ることで「まるいわブランド」(野菜類)の生産拡大を図り、農業所得を向上



- ほ場の大区画化とともにスマート農業に取り組むことで農作業を最大限に省力化し、農作業時間縮減及び労働負荷軽減【米生産コストの低減】

- 農家グループによる加工品開発などの付加価値向上に向けた取組を推進



【北の大地マルシェ】(直売施設)

(国営総合農地防災事業)

雨竜川下流地区



～農作物の安定した生産のために～

【地域の概要】

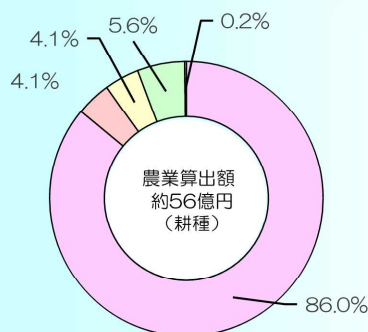
本地区は、北海道雨竜郡妹背牛町及び秩父別町に位置する農業地帯であり、水稻を主体に水田の畑利用による畑作物、野菜類及び花きを組み合わせた営農が展開されています。

地域農業は、水稻の算出額割合が86%と高く、北海道で生産される米の約4%を占めています。生産された米は各町が所有する低温貯留乾燥調整施設で保管され、地域ブランド米（妹背牛町「北彩香」、秩父別町「いなほの鐘」）として、道内外に販売されています。

また、農商工連携により「ちっぷべつ緑のナポリタン」を販売し、地域の発展に寄与しています。

《地域の農業の状況》

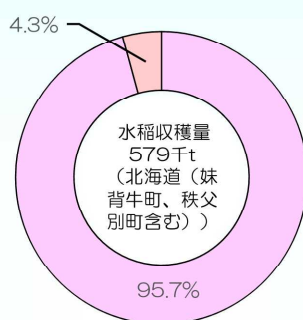
《2町の農業産出額割合》



□米 □麦類・雑穀・豆類 □野菜 □花き □その他

出典：平成27年市町村別農業算出額（推計）

《北海道における2町の水稲収穫量割合》



□北海道（妹背牛町・秩父別町除く）
□妹背牛町・秩父別町

出典：平成28年作況調査

「特Aランク」のブランド米



＜地域ブランド米（北彩香、いなほの鐘）＞

《農商工連携による地域の発展》



＜ちっぷべつ緑のナポリタン＞

特産品であるブロッコリー等を活かした「ご当地グルメ」や「加工食品」を開発。農商工連携により、原材料の生産、加工、飲食店での提供までを地域で完結させることにより、地域農業の収益力の向上を図っている。

【地区の課題】

本地区の基幹的農業水利施設である八丁目頭首工は、洪水等の自然的状況の変化に起因する河床洗掘の進行により、浸透路長が不足し、施設の機能が低下していることから、頭首工の転倒によって農作物、農地等への災害のおそれが広域的に生じています。

■河床洗掘による頭首工の安全性低下

年度	八丁目頭首工 計画高水流量	
昭和40年	2,200m ³ /s	八丁目頭首工造成時
↓		
平成19年	2,500m ³ /s	計画高水流量の変更

頭首工の安全性が不足

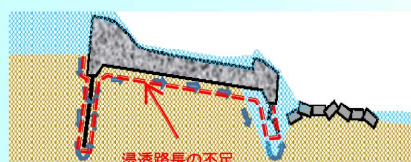
平成14年撮影



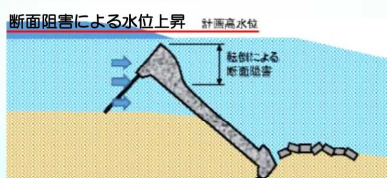
平成27年撮影



■八丁目頭首工の用水供給の停止、広域的な災害のおそれ



- ・河床洗掘により、下流側護床工が低下し、浸透路長が不足。
- ・浸透路長の不足に伴うパイピングによる固定堰転倒の懸念。



- ・固定堰の転倒にともない、用水供給の停止に加え、河川堤防が破堤した場合、広域的な災害が発生するおそれ



【事業の効果】

八丁目頭首工等の改修を行い、頭首工の施設機能を回復することにより、農作物、農地等の広域的な災害を未然に防止し、農業生産の維持及び農業経営の安定を図ります。

【現況】



頭首工等の改修



【改修後イメージ】



農業生産の維持



【米の収穫状況】



【地区の概要】

- ◎関係市町村 : 雨竜郡妹背牛町、同郡秩父別町
- ◎受益面積 : 829ha
- ◎受益戸数 : 58戸
- ◎主要工事計画 : 頭首工（改修）1カ所、揚水機（改修）1カ所、導水路（改修）1条 L=2.5km
- ◎工期 : H29～
- ◎主要作物 : 水稻、小麦、大豆、ブロッコリー、花き(スターチス)